

竹下復興大臣ぶら下がり記者会見録
(平成27年6月29日(月) 13:25~13:33 於) 福島県大熊町)

1. 発言要旨

今日は大熊町と双葉町を視察させていただきました。まず2カ所のインターチェンジの予定地を見させていただきまして、そこにつながる道路網を相当直さなければいかんということも実感いたしました。また、それぞれの復興拠点、この大熊町で言いますと、この大川原地区を視察させていただき、どういう方向でやっていくか、今、早ければ今年度中にもう着手したいという熱意も受け取らせていただきまして、まさに力を合わせて復興をやっていかなければならんと、帰れるということをしつかりと皆さん方にお示しをする一つの大きなジャンプ台になるなという感じを持ったところでございます。

また、双葉町においても復興に向けて、帰還に向けて、様々な動きが始めているということは、この原発の被災地はなかなか復興にまでたどり着かなかったわけでありますが、ようやく少し明かりが見え始めたなという実感をしっかりと持つことができたこと、こう思っております。

また、もう一カ所は、中間貯蔵施設の搬入状況を視察させていただきました。これがまだまだ道は遠いなということを実感をさせていただきましたし、例えば、この大川原にいたしましても、あそこにフレコンバックがいっぱいまだ積んだままというのでは、拠点にならないわけでありまして、まず中間貯蔵施設をしっかりと動かして、あそこで除染を行ったものをしっかりと運び込むということ、これも急がなければならんということを実感をいたしました。一番厳しい状況にある、この双葉町と大熊町、町長を初め町の皆さん方が、本当に一生懸命になって、復興に向かって動いていらっしゃるなということ、これを改めて痛感をさせていただいた次第であります。

もう一つ忘れていました。カレーライスをごちそうになりました。給食センターが既に完成をいたしておりまして、カレーライスをごちそうになりました。やっぱり、以前、復興大臣になる前に感じておりましたことは、大熊に給食センターができるのと、ここで飯が食えるのという素人の心配を私自身もしておいたことは事実であります。実際にこうやって見て、すごい最新の設備の中ででき上がったカレーライスを食べさせていただきまして、やっぱり働く人たちに活気が湧きますよ、温かいものを食べさせてもらえるというのは。大きな進歩だということ、これも痛感をいたしましたような次第であります。いずれにしても、本当に力を合わせて、これからも復興に取り組んでいかなければならない。我々は必ず復興すると。その復興と一緒に町の人も、そして、県も町も力を合わせて向かって歩いていかなければならんということ、これを本当に心から、自らに、もう1回も2回も言い聞かせながら、やっていかなければならんと思った次第であります。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今日、大臣は大熊町と双葉町と、2カ所の復興拠点をご覧になって、「帰れるぞ」と実態として示さないといけないとおっしゃいましたが、大熊町のほうは、既に給食センターとかも動き出しておりますが、双葉町のほうは、まだまだこれからというところで、スピードの差というか、復興の進捗状況に差を感じるのですが、そのあたりはどのようにお考えですか。

(答) 合意の取り方ですとか、地形の問題ですとか、いろいろな問題がありまして、時間的な差が出るのはある程度やむを得ないと思っております。ただ、伊澤町長も渡辺町長も、「復興するぞ」という強い強い意欲をお持ちでありますので、多少の時間のずれは出るかもしれませんが、お互い復興していけると、こう思っております。

(問) 午前中の双葉町との意見交換の中で、伊澤町長から要望を受けたと思うんですけども、その中で祈念公園の建物など、町として震災や原発事故の教訓を受け継ぐアーカイブセンターを造りたいというお話がありましたが、こちらについて、支援もしくは今後の取り組みというのはどうのように考えていますか。

(答) 先般、福島県知事のほうから、福島県の復興の祈念施設は、双葉町と浪江町のあのエリアに造りたいという意向をお伺いいたしました。その中で、国が果たすべき、いわゆる祈念公園というものは、その中の数ヘクタールぐらいかなとこう思っておりますが、あとはどういう形にするのか、これから県と、あるいは、間違いなく伊澤町長からもアーカイブの施設というお話がありました。どうしていくのかというのは、これから徹底的に話し合っ決めていかなければならんことだと、こう思っております。

(問) 双葉町長から、ほかには具体的に何か要望があって、それに対してお答えを何かその場でされたことはありますか。

(答) いや、3項目の要望がありまして、財源の支援ですとか、祈念公園の話と、もう一つ何だったかな、3つあったんです、3つありまして、しっかり受けとめて帰りますと、全てほぼイエスマイナの話だったものですから、そこで別に改めて話はしなかったところです。

(問) 中間貯蔵の遅れの話が今、出ましたが、所管は違いますが、遅れている原因とかその背景とかというのはどのように大臣から見ているんですか。

(答) 正直言って、本当の詳しいところはわかりませんが、やっぱり地権者との交渉というのは、やっぱり大変なんだろうなと思います。二千数百人いらっしゃるって、何百人か連絡がつかないという、これは努力すればすぐに解決するかという問題ではないものですから、なかなか難しい問題があるんだと。しかし、着々と動いていますよ。工業地帯を無償で借り受けて、まだ売買契約はできていないけれども、無償で借り受けて置いているんだという話もしていらっしやいました。その点では非常に協力的に動いている部分も相当あ

るなどということも感じまして、確かに急がなければならんことではありますけれども、これから力を入れて、もう環境省の尻をたたいてでも、これはやらなければ復興につながっていきませんから、我々は何としてもやってくれという要望をずっとこれからもし続けていく予定であります。

(以 上)